

## この時期こそ、喜べ（チャペルメッセージ⑪）

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。（新約聖書・フィリピの信徒への手紙 4章4～7節）

※今回は社会福祉学科の李善恵先生からのメッセージです。

皆さんは一日何回笑っていますか。また、どんなときに喜びを感じていますか。2017年のある調査を見ると、人々が一日に笑う平均回数は11.3回、その中で20代平均は15回、50代平均は7.1回でした。子どもの場合、一日300～400回ほど笑うといわれているので、歳を取れば取るほど、笑う回数が激減しているのが分かります。最近、外出自粛によって人に会う時間が減り、笑うチャンスがより減ったような気がします。テレビをつけたら、一日どのくらいの人が新型コロナウイルスに感染したのかが主に報道されるので、自分の身には楽しいことや嬉しいこと、良いことが起こらないかも、と感じられるときがあります。皆さんはいかがでしょうか。

今日の聖書の箇所は、牢に監禁されていた使徒パウロが、以前キリスト教を伝道したフィリピの共同体（教会）宛に送った手紙の一部です。A.D.60年代の当時の牢獄を想像してみてください。囚人だから、首や手、足などに鎖がつけられ、動きにくかったと思います。また、洞窟みたいな空間で狭くて窓もなく、衛生状態が悪かったと思われる。笑える状況ではありません。喜べない最悪の状況です。しかし、使徒パウロは「喜びなさい」と語っています。彼にとって喜びとは、一体何でしょうか。

最初の「主において」が重要なキーワードです。共におられる主、インマヌエルが喜びの根拠になるということです。たとえ牢獄にいて困難な状況に置かれていても、主において、主を信じているから、主を愛しているから、むしろ喜ぶことができるという使徒パウロの信仰告白が表されます。周りの人間や環境によく振り回される私たちには、なかなかできない行動です。聖書の箇所がここで止まっていたら、おそらく主を信じる、愛する人は誰もいないかもしれません。

しかし、使徒パウロは、そのような私たちも厳しい状況の中でも喜ぶことができる方法を教えています。それは、「感謝を込めて祈りと願いをささげる」ということです。私たちを創造された神様が私たちの悩み、苦しみをご存知ではないはずがありません。ただし、神様は私たちの意志または決断を求めておられるのです。この時期にこそ、神様に感謝を込めて祈りと願いをささげながら、喜ぶことです。努力しないとできません。これは、コロナウイルスに負けないために大事なことの中にある「Stay Thankful（感謝の気持ちを忘れずに）」と「Stay Focused（大事なことは考え続けよう）」に繋がっていたと感じました。今日から日常生活の中で「喜ぶ」ことを意識して生きていきましょう。この時期にこそ、生という神様からいただいたプレゼントに感謝しながら、主にあって喜びながら生活してほしいです。皆さんは決して一人ではありません。共におられるイエス様の平和によって守られます。